

宮澤健治の「雨ニモマケズ」

〈原文〉

雨ニモマケズ 風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ
慾ハナク 決シテ^{いか}瞞ラズ イツモシヅカニワラッテ^まル
一日ニ玄米四合ト 味噌ト少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲ シブンヨカンジョウニ入レズニ
ヨクミキキシワカリ ソシテワスレズ
野原ノ松ノ林ノ陰ノ 小サナ萱ブキノ小屋ニ^まテ
東ニ病氣ノコドモアレバ 行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ 行ッテソノ稻ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ 行ッテコハガラナクテモイ、トイヒ
北ニケンクウヤソショウガアレバ ツマラナイカラヤメロトイヒ
ヒドリノトキハナミダヲナガシ サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ ホメラレモセズ クニモサレズ
サウイフモノニ ワタシハナリタイ

天草方言で読む「雨にも負けず」 鶴田 功(訳詞)

雨にも負けん 風にも負けん
雪にでん 夏の暑さに^{はる}つつちゃ 負けん 丈夫んか体ばもち
慾はせえでん 決して^{はる}腹かかんで いつでん静かに^{わる}笑うとる
いちんち 一日に玄米四合と 味噌と ちいとばっかんの野菜ば 食い
あらゆるこつば 自分ば勘定に入れでにや
ゆうっと見聞きし 分かり そして忘れでん
野原ん松ん林ん^{かげ}陰ん こまあか萱^{かやぶ}葎きん小屋におって
東に 病氣ん^{こどん}子供がおったろうば 行たて 看病してやり
西に きゃー^{くたぶ}草臥れた母がおれば 行たて そん稻ん束ば ^{かる}負い
南に 死んかぶった人のおれば 行たて ^{おと}怖ろつしゃせんちゃよかといひ
北に ^{けんか}喧嘩てるん ^{そしょう}訴訟があれば つまらんけん すんなといひ
日照りん時や 涙ば流し 肌寒か夏あ ゆつつらゆつつら^{あゆ}歩び
みんなに^{でく}木偶の坊ち 言われ ^ほ褒められもせえでん 苦にもされでん
そういう者^{もん}に 私や なるごたる